

報 館 おおなだ

平成30年9月1日現在
世帯数：3,061 戸
男 3,512 人
女 3,620 人
計 7,132 人



■ テントが張れたぞ！

岡田の自然を満喫!! 芥子坊主体験キャンプ （主催：岡田地区子ども会育成会）

8月7日、芥子坊主農村公園一泊のキャンプが実施されました。10年以上続く岡田地区ならではの催しですが、台風のため場所を変えたり中止になったりで、テントを張るのは3年ぶりのことです。参加者は小学生40名、見守りや指導をする大人は子ども会育成会を中心に、公民館職員、保護者、ボランティアの皆さん22名です。岡田小学校の先生方もテント設置の指導

に来てくださいました。

朝9時に開会式、そこで班編成が発表され、まずは班ごとにテント張りです。教わったとおりに着々と仕事をし、完成したテントの中でトランプを始めるグループもあれば、つないだポールを持って「へびだぞう」とふざけあうグループもあります。午後は自然観察会のあと、薪を集め、かまどを作って飯ごう炊さんをしました。高学年児童は「美ヶ原登山でやったから」と手慣れていました。おいしいカレーは大人たちが大鍋で作りました。

夕飯の片付けも皆で協力した結果、短時間で終わり、お待ちかねのキャンプファイヤーです。緊張の面持ちで「火の神」を務めたのは6年生3人でした。踊りや花火、きもだめしもあり、充実のプログラムでした。



■ 飯ごう炊さん



■ 調理の様子

みんなで作るカレーはおいしいね

前公民館長で、長年このキャンプに関わってこられた宇佐美映之さんに、このキャンプへの思いを聞きました。「財産区の自然を岡田の子どもの育成のために活用したいし、ここで体験したことを大切にしてもらいたいです。夏休みのもう一つの行事『川遊び』もですが、岡田の子には一度は参加してもらいたいと思っています。」とおっしゃいました。そして「なるべく、子どもに自由にさせてい。」とも。キャンプファイヤーが終わるまで参加された岡田小の武田校長先生は、「異年

岡田地区町内公民館対抗球技大会結果

9月2日（日）に岡田地区町内公民館対抗球技大会が行われました。あいにくの曇天でしたが、各競技で熱戦が展開されました。結果については以下のとおりです。



総合成績

優勝 東区
準優勝 岡田町
第3位 山浦



軟式野球

優勝 東区
準優勝 岡田町
第3位 山浦
伊深

ソフトバレー (男女混合)

優勝 山浦
準優勝 東区
第3位 松岡

ソフトバレー (女子のみ)

優勝 神沢
準優勝 東区
第3位 岡田町

卓球 ラージ

優勝 岡田町
準優勝 松岡
第3位 東区

ゲートボール

優勝 東区
準優勝 山浦
第3位 伊深

マレットゴルフ

優勝 岡田町
準優勝 松岡
第3位 東区



■ 火の神登場

年齢の新しいグループがいきいきと過ごし寝泊まりする、この非日常がいいですね。」と話されました。子どもたちを見てみると、一緒に働き、遊びながら、仲間になっていく様子がわかり、興味深いものでした。彼らがのびのびと過ごす背景に



■ 火を囲んで松本ほんぼん

は、大人のさりげない指導や支援もありました。継続によるノウハウの蓄積も伺われます。広い公園や道端まできれいに草が刈られ、トイレの掃除も行き届いていて、地域の大勢の人々に支えられ、このキャンプができるのだと、実感しました。

岡田ぼっとニュース

「東区コミュニティ・カフェ」が動き出しました

- ・家にばかりいたら、こずんでいけばかり
- ・日頃の暮らしを地域に広げ、よもやま話で元気な毎日
- ・皆で手を携えれば、住みやすい東区がすぐそこに

そんな思いで6月23日から、東区コミュニティ・カフェを始めました。『いつでも気楽に立ち寄り、誰かと出合える場所』皆が集まって来る超居心地のいい所／人も地域もつながって、人も地域も温かくなる地域の居間』を目指しています。

毎月偶数土曜日9～10時に開かれる地場の新鮮野菜の『よつてけ市』に合わせて開店し、午後6時までやっていきます。無料で、コーヒー茶菓をお出ししています。

午前中は、皆さん『よつてけ市』のついでに寄って来てにぎわうのですが、昼で一区切りになり、午後は静かなものです。7月上旬に梅雨明けが宣言され、暑い夏が例年の3倍くらい続きました。そのため、出

けるのおつくりで、皆さん外出を控えるということもあつたと思います。8月までに、既に5回開催しましたから、皆さん慣れてきて、何となくゆつたり、穏やかな感じになつてきました。

カフェ・喫茶店というのは、基本的にいつも静かで、皆が分散してそれぞれのことをしているものです。ふれあい健康教室は、皆と一緒に体操やゲームをし、歌をうたつてお茶を飲んでいきます。音頭取りがいて、皆が合せていくということでしょう。コミュニティ・カフェは、カフェですから、喫茶店風の空間をまずは目指すべきなのだろうと思つています。しかし、いつも人が出入りしている、ざわざわ感がほしいとも思ひ、皆さんの注文を聞いているところで

いろいろな検討し、手作りしていきます。

東区町会長 小林 修



みんなでにぎやかに

第33回 おかだ夏まつり

—台風12号の逆走予報で苦渋の中止—

地域の皆さまが、楽しみにしていた「おかだ夏まつり」でしたが、今年台風12号の接近予想に関する情報にもとづき、開催日前日の7月27日(金)午前9時に実行委員長等と協議した結果、来場者や参加者の安全重視を優先し、中止することと決定しました。老若男女の交流の場として、毎年

楽しむにしていた地域の皆さまにおかれましては、急な連絡となつたことをお詫びいたします。また、スポンサーとしてご協賛いただいた企業・個人の皆さまには深く感謝申し上げます。

この度の中止に係る収支概算について、ご説明いたします。総収入は約216万円、総支出は約74万円(機材レンタルのキャンセル料約29万円、協力券景品約30万円、印刷製本・事務費ほか約15万円)となりました。残額約142万円は繰り越すこと

私たちは自宅で農家民宿を営んでいます。お客さんは日本だけでなく世界中から。特に欧米の方は日本文化に興味があるようで、座敷に布団を敷いて寝ることが新鮮でとても満足して帰られます。

外国の方を受け入れていて思うことがあります。それは私

海外と日本のサービスに対する感覚の違い
神沢 川邊 明日香

からないくらいきれいで、簡単なお願いでも私たちの都合を気に遣つてくれます。お土産を持つてきてくれる方も多いです。それは、私たちが家族で経営しているからということもあると思

いますが、その国のお国柄が関係していると思います。日本では「お客様は神様」といわれますが、海外ではスタッフとお客様は対等です。利用する側としては、日本はとても快適ですが、サービスを提供する

側になつてみると、こちらに多くを求めずそれで当然と考える欧州の方を相手にするときは心地よさ、気軽さは、仕事を楽しく快適にさせてくれるように感じます。対等に接してもらえると、こちらもまた来てほしいと思つています。

お金を払えばやってもらつて当然という精神は、働く人を忙しく、窮屈にさせます。日本の世界一のサービスは、お互いに相手を気遣い感謝できる気持ちがあつてこそだと思つています。



実行委員会

33回を数える夏まつりの歴史で初の中止となつたことを受け、様々な課題も出てきました。今回の経験を振り返り、来年以降の開催に向けたノウハウとして生かしていきたいと思ひます。

(第33回おかだ夏まつり 実行委員会)